

『阿波の国・徳島県巡回公演』—楽しきことは成功也—

April 2010

文化庁・徳島県民文化祭開催委員会教育実行委員主催  
『芸術文化が学校にやってくるプラン』（平成22年1月25日～2月25日）

「室内楽」「和楽器」「狂言」と三つジャンルの番組で、徳島県内28会場38校参加でのアウトリーチ型の鑑賞教室を実施しました。

- I. 室内楽アンサンブル・コンサート 《音楽で巡る世界の旅》
- II. 和楽器鑑賞会 《箏・尺八と友達になろう》
- III. 狂言鑑賞会 《笑いの芸術：狂言》

公演業務と番組企画を受注してから公演初日までの準備期間が少なかったこともあり全行程を無時に終了することを最大の目標として初日を迎えました。

実績のある出演者の演奏、演技レベルには自信があったものの、進行面や制作面での段取りをチェックする時間的な制約ゆえの一抹の心配があったが幕を開けてみると、杞憂に過ぎなく安堵した。

幅広い学年層(園児～高校生)にたいして「室内楽」では年齢対象ごとにプログラムを作成。「和楽器」での唯一の幼稚園公演では民話《三枚のお札》を題材に、語りと演奏(作曲・構成＝水川寿也)で新鮮な世界を創り、「狂言公演」では鏡板を設営した本舞台とは別に客席に演技スペースを作り解説・体験などを身近に見られるように工夫して立体的な空間となった。

ステージ毎に新たなエピソードが生まれ、特別支援学校での生徒の反応や年少の園児がどう受け止めるだろうか？といった緊張も感動に変わり嬉しいサプライズ。各体験プログラムも生徒と実演家との心の交流に発展、舞台成果に相乗効果を生みだしました。

最も寒冷の時季に果敢に演奏、実演した出演者のプロフェッショナルな姿と、開催校、主催者ご担当者の暖かい協力。

「実現出来て嬉しい」と語った学校長や先生方、鑑賞行事の機会を子供たちと共有したいとの熱意がこの事業の一つの成果でもありました。

各担当のスタッフ、要所ごとにお手伝い頂き観光案内までしていただいた地元のスタッフの方までが一つのチームとしてまとまっていました。

最終公演後の車中で、室内楽の若手の方が「ひとこと言って良いですか？」と言われ何かご意見でもと身を正したら、にっこり笑って『無茶楽しかった～』。大笑いでした。“出演者が楽しく帰る時は成功した時也。”

【出演団体】

- ①室内楽アンサンブル『船山千秋とフローラ・アンサンブル』『アンサンブル・クローチェ』
- ②和楽器鑑賞会『邦楽ユニットアクシス』
- ③狂言鑑賞会『大藏流若手狂言 SHIN』